

## 第70回春季東北地区高等学校野球秋田県大会 新型コロナウイルス感染防止ガイドライン実施要領

令和4年4月28日

秋田県高等学校野球連盟

### 1 大会運営の基本的な考え方

- (1) 全試合を有観客試合（有料試合）とする。
- (2) 感染対策を施し、選手および関係者の安心と安全を担保する。
- (3) 感染拡大の状況によっては、大会前または大会中に無観客試合に変更する場合がある。

### 2 開催延期等の判断

秋田県教育委員会から次の指示が出た場合、延期または実施内容を変更する。

- (1) 学校の一斉休校
- (2) 部活動の自粛要請
- (3) 大会自粛要請

### 3 感染者が発生した場合の対応

#### (1) 大会関係者、チーム関係者

大会前、大会中に関係者から感染者が発生した場合は、秋田県新型コロナウイルス感染症対策本部「新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者の特定等について」及び秋田県教育庁保健体育課「改訂版 オミクロン株が主流である間の県立学校（中学生、高校生）に感染者が発生した場合の具体的な取扱い及び対応」（令和4年4月18日事務連絡）に沿って対応する。なお、保健所の指示には従わなければならない。

#### (2) 一般入場者、学校応援者

- ① 球場で観戦後、14日以内に感染者となった場合、大会中であれば秋田県高等学校野球連盟事務局まで連絡をしてもらう。
- ② 主催者である秋田県高等学校野球連盟は試合会場となる球場とも情報共有し、保健所の指示に従い、ホームページで感染者発生の情報発信など、然るべき措置をとる。

### 4 参加校の大会参加可否の判断基準

- (1) 大会中、参加校から①感染者（※1）ならびに②濃厚接触者（※2）および③自宅待機対象者（※3）が判明した場合、主催者は参加校責任教師から情報収集（感染者数、行動歴、保健所の指示内容）に努める。なお、①～③の者は感染リスクの高い行動を控え、次の一定期間は大会に参加できないものとする。

① 感染者：保健所や医師から感染解除の診断が下るまで。

② 濃厚接触者：判定日から7日間（中7日）

③ 自宅待機対象者：判定日から7日間（中7日）

※1 感染者…PCR検査（LAMP法、TMA法も含む）、抗原定量検査または抗原定性検査で陽性と判定された者。

※2 濃厚接触者…疫学調査に基づき保健所長が特定する者。

※3 自宅待機対象者…学校長が学校医の助言のもと特定する者。

- (2) 感染者や濃厚接触者等が判明した場合、当該校校長は保健所と相談の上、出場の許可または不許可をする。
- (3) 主催者は参加校校長の判断を尊重し対応する。しかし、当該校の感染状況（部内での集団感染や集団感染が予見されるなど）によっては出場を差し止めることもある。
- (4) 参加校から感染者や感染が疑われる者が発生し、当該校の大会出場が不可能となった場合、対戦校を不戦勝とする。

## 5 春季秋田県大会（以下、県大会）終了後、春季東北大会（以下、東北大会）までに代表校から感染者、感染が疑われる者が発生した際の対応

- (1) 可能な限り選手変更などで対応する。
- (2) 万が一、代表校関係者から感染者、感染が疑われる者が発生し、東北大会にチームとして出場できなくなった場合の対応については、日本高等学校野球連盟及び東北地区高等学校野球連盟の指針にしたがう。

## 6 春季秋田県大会終了後の健康観察

大会関係者、参加校チーム関係者は県大会を終えた後、14 日間以内に新型コロナウイルスに感染した場合、あるいは感染が疑われた場合は速やかに秋田県高等学校野球連盟に書面にて報告する。

## 7 熱中症対策

感染防止策が熱中症の発症を助長しないよう、暑さ指数が厳重警戒レベルになれば熱中症対策を優先する。

なお、熱中症予防のため、暑さ指数（WBGT（湿球黒球温度）：Wet Bulb Globe Temperature）が 28℃以上（参考値としての気温が 28℃以上）の厳重警戒レベル以上になれば、「マスクを外してよい」、「こまめに水分補給する」、「出来れば日陰に入る（2m あるいは一人分の間隔を空ける）」、「静かに観戦する」ことを、場内アナウンスで伝える。

### ● 日常生活に関する指針

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28～31℃※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25～28℃※)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※ (28～31℃) 及び (25～28℃) については、それぞれ 28℃以上 31℃未満、25℃以上 28℃未満を示します。

日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針 Ver. 3」（2013）より

● 運動に関する指針

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31℃以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。
31～35℃	28～31℃	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28～31℃	25～28℃	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24～28℃	21～25℃	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21℃未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

※暑さに弱い人：体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など

(公財) 日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(2019) より

## 8 入場者の制限等

秋田県新型コロナウイルス感染症対策本部「基本的な新型コロナウイルス感染症対策についてのお願ひ」(令和4年3月22日)等を踏まえ、入場者の制限等については次のとおりとする。

### (1) 入場を許可しない者

- i) 球場入場時、検温により 37.5℃以上の発熱があった方。
- ii) 1週間前から来場時まで本人や家族に下記症状のある方。
  - 37.5℃以上又は平熱より 1℃以上の発熱
  - 繰り返す咳
  - 持続する咽頭痛
  - 持続する鼻汁
  - 持続する鼻閉感
  - 持続する頭痛
  - 強い嗅覚障害
  - 強い味覚障害
  - 立位や座位がづらい程の倦怠感
  - 下痢
  - 嘔気・嘔吐
  - 持続する眼の痛み
  - 眼球結膜の充血
  - 苦しそうな呼吸 (25回/分以上など)
- iii) PCR検査で陽性歴があり、次の①～④のいずれかに該当する方。
  - ① PCR検査で陰性を確認しない有症状者では、症状軽快後 72 時間以上経過していても発症日から 10 日未満。
  - ② 症状軽快後 24 時間経過から 24 時間以上の間隔をあげ 2 回の PCR 検査で陰性を確認できていない。
  - ③ 無症状病原体保有者では、陰性確認から 10 日未満。
  - ④ 検体採取日から 6 日間経過後、24 時間以上の間隔をあげ 2 回の PCR 検査陰性を確認できていない。
- iv) 濃厚接触者 (自宅待機者) の方、もしくは家族が濃厚接触者 (自宅待機者) として自宅待機中の方。
- v) 海外から帰国 (日本に入国) して 14 日以内の方。
- vi) マスク非着用の方。

(2) 入場定員数

(秋田県新型コロナウイルス感染症対策本部会議「基本的な新型コロナウイルス感染症対策についてお願い」のうち、「4 イベント・行事等の開催 イベント・行事等の参加人数の上限等」により算定)

こまちスタジアム	7,500名	(15,000名)	
さきがけ八橋球場	5,000名	(8,581名)	
大曲球場	3,340名	(3,340名)	[空席不要]
能代球場	4,500名	(4,500名)	[空席不要]

※ ( ) 内はバックネット裏と内野スタンドの収容定員。外野スタンドは含めない。

(3) 入場者につぎのことを呼びかける。

- ① マスクの着用、咳エチケットを遵守し、球場内設置の消毒液で手指消毒を励行する。
- ② スタンドでの席と席の間は1.5m～2m 空けること(最低でも1席空ける)。【こまち・八橋】
- ③ むやみに座席を移動せず、ソーシャルディスタンスをとる。
- ④ 自分の座席位置を確認できるように記録(写真、メモ等)すること。
- ⑤ 素晴らしいプレーには声援ではなく、拍手を送ること。**大声での応援は禁止する。**
- ⑥ ハイタッチや得点時に座席の上に立つ、肩を組む、1カ所に集まる行為を禁止する。
- ⑦ 「秋田県版新型コロナ安心システム」を積極的に活用すること。

(4) 入場口と退場口を分けて、不特定多数との対面での接触を減らす。

## 9 入場券販売の際の留意事項

- (1) 入場券購入時における密集、密接を回避する。
- (2) 入場券販売者は不織布マスクを必ず着用し、飛沫防止用のパーテーション(アクリル板等)、またはフェイスガードを併用し、対面販売での感染回避に努める。
- (3) 入場券販売者は衛生手袋を使用し、金銭および入場券のやりとりの際はトレーを使用する。
- (4) 入場時のもぎりの担当者は不織布マスクを着用し、衛生手袋を使用する。
- (5) 衛生手袋を使用中の際、時々手袋の上から消毒し、時々取り替える。衛生手袋を脱いだ時は手指消毒を行う。

## 10 来場者(大会役員、出場者、審判委員等)の健康管理

- (1) 球場入りする大会役員、出場者、審判委員等は検温と健康観察を継続して行うこと。また2週間前からの行動歴(いつ、どこに行き、誰と会ったか)の記録、不織布マスク着用を義務付ける。
- (2) 各校は参加にあたり、当該校校長の同意を得る。校長は参加選手の健康に問題がないことを学校医から証明を受けるか、もしくは、保護者から選手の健康についての参加同意書を得る。

### → 別紙「証明書」「同意書」

責任教師は、大会の初戦日に**校長が参加する選手の保護者全員から同意書の提出を受けたことを証明する**「証明書」を本部役員に提出する。**同意書は学校で保管する。**

- (3) 責任教師は、参加2週間前から部員の健康状態を把握する。
- 様式1「個人用 検温確認表」
- (4) 責任教師は、試合当日、球場到着後、直ちに次の①～④(様式2～5)を大会本部へ提出する。
- ① 様式2「ベンチ入り者用(ボールボーイ、補助員含む) 検温確認表」
- ② 様式3「応援部員用(顧問・コーチ含む) 検温確認表(兼入場申請書)」
- (5) 球場入りは、選手資格証明書に登録された24名(選手20名、記録員1名、責任教師1名、監督1名、ノッカー1名)、ノック補助員(兼ボールボーイ)3名、大会補助員(放送、記録、カウント操作、パソコン操作等)のみとする。
- ※荷物の運搬は、ベンチ入りメンバーおよびノック補助員(兼ボールボーイ)で行う。
- ※副部長およびコーチ等は応援席での観戦(応援部員の指導を含む)を原則とする。ただし、大会役員としての割当てがなされている場合は、その限りではない。
- (6) 審判委員は入場の際、不織布マスク着用の上、検温する。また、責任審判委員は検温確認表(当日球場入りする審判委員の健康状態を記録)を大会本部へ提出する。
- 様式4「審判委員用 検温確認表」
- 球審及び塁審は試合中、熱中症防止のためマスクを着用する必要はない。ただし、マスクを着用する場合は不織布マスクとする。
- (7) 次の試合の出場チームとの入れ替え時における接触を避けるため、前試合のチームが退場してから次試合のチームが入場する。
- (8) 球場内のロッカールーム(選手控室)は原則として使用しない。道具置き場は各球場配置の大会役員の指示に従う。なお、選手が球場入りする際は、持ち込む道具類を必要最低限のものにとどめる。

## 11 試合

- (1) 球場の入退場時、各チームは不織布マスクの着用を徹底し、手指消毒を行う等の感染予防に努める。
- (2) 試合前のメンバー表交換の時間はそれぞれ試合開始予定時刻の1時間前とする。
- (3) チームの共用用具として考えられるもの(バット、ヘルメットなど)に関しては、こまめに消毒を励行する。
- (4) 飲料水やタオル等は個人専用とし、カップ等は共用しない。
- (5) 投手用ロジンは両チーム用として大会本部で2個用意する。打者用ロジンは各チームで用意する。
- (6) ウォーミングアップ時、選手のマスク着用は義務付けない。
- (7) 試合前、シートノック後、5回終了時、試合後のグラウンド整備は勝敗に関係なく、当該校のベンチ入りメンバーおよびノック補助(兼ボールボーイ)で行う。
- (8) 試合開始前、終了時に整列する際、選手は手を腰に当てて、隣の選手とぶつからない程度の距離を空けて挨拶を行う。挨拶は、発声を控え一礼のみとする。なお、相手チームと握手などは行わないこととする。

- (9) ダッグアウト前での円陣を組んでの声出しは自粛する。また試合中、マウンド上で集合する際はグラブを口に当てることとする。
- (10) 試合中、素手によるハイタッチや握手を控えることとし、自身の目、鼻、口なども触らないようにする。
- (11) ダッグアウト内では密集にならないよう、出来る限り人と人との距離を一定間隔に保つこととする。
- (12) 試合中、ダッグアウト内の責任教師、監督、選手、記録員及びボールボーイは熱中症対策を十分に講じて不織布マスクを着用する。熱中症予防のため、息苦しいと感じたらマスクを外してよい。また、ノッカーおよびノック補助員は、シートノック時にはマスクを外してもよい。グラウンドで試合に出場している選手は、マスクの着用は義務付けない（ベースコーチを含む）。

## 1.2 試合後

- (1) 試合後は、ベンチ内の除菌作業を責任教師管理下にて当該校で行い、速やかにダッグアウトを空ける。
- (2) 大会役員の誘導により定められた動線にしたがい必要に応じて取材対応を行う。
- (3) 取材終了後、速やかに帰校あるいは帰宅する。
- (4) 球場入り口付近での保護者等による出待ちや写真撮影等を行わないこと。

## 1.3 応援

- (1) 校歌、応援歌等を歌ったり大声を出したりすることは、飛沫感染リスクを高めるので、マスクを着用していても禁止する。素晴らしいプレーには声援ではなく拍手を送ること。また、接触感染防止のため、他人とのハイタッチや肩組み等を禁止する。
- (2) 熱中症及び感染防止対策のため、踊り（ダンス）等を含んだ応援を行わないこと。
- (3) 球場内へメガホンの持ち込みは可能であるが、使用する際は声を出さず叩くのみとする。
- (4) 太鼓の持ち込みは1個までとする。 ※和太鼓は不可。

## 1.4 報道・中継・配信機関への対応

- (1) 報道・中継関係者は報道・中継機関ごとに、入場申請書（報道用）を、県高野連の指定する日時までに県高野連事務局へメール（[office@akita-koyaren.com](mailto:office@akita-koyaren.com)）で提出し、事前登録をする。
- (2) 各球場とも報道に携わる記者やカメラマンの人数を新聞社は各2人、テレビ局は各3人までとする。速報発信のための記録員は、各球場とも1人までとする。検温、手指消毒、マスク着用の上、入場を許可する。その際、健康確認票を提出し、大会本部発行の入場証を身につけること。事前登録のない方の入場は認められない。
- (3) 試合前の取材を禁止する。送迎バス内での選手や監督への取材は原則禁止とする。
- (4) 取材は記者室、カメラマン席、中継席、スタンドに限る。
- (5) 学校応援者への取材は行わない。

- (6) 試合後は、希望があれば1チームあたり2人の選手と監督の計3人（2チームで計6人）を全社で取材する。
- (7) 取材時間は1チームあたり20分（一人10分以内）まで、2チームで計40分を目安とする。選手・監督と取材陣は少なくとも2メートル距離をあける。
- (8) 「第70回春季東北地区高等学校野球秋田県大会の取材について」（ガイドライン）及び「第70回春季東北地区高等学校野球秋田県大会の中継・配信について」（ガイドライン）」を遵守する。

## 15 その他

- (1) 審判委員の試合前の用具点検用として衛生手袋を使用する。
- (2) 審判委員への給水は、5回終了時と試合終了後は控え審判等に依頼する。3回終了時と7回終了時は必要に応じてボールボーイ（衛生手袋を着用。早めに準備する）が行う。なお、感染防止を踏まえ、タオル等の提供は行わないが、熱中症予防のための措置を講ずる。